Press Letter

じゃらんリサーチセンター

RECRUIT 株式会社リクルート

2025年7月15日

じゃらん観光国内宿泊旅行調査 2025
【都道府県魅力度ランキング編】

香川県が総合満足度1位　「量より質」を求める旅の変化が背景に
テーマ別では9部門のうち6部門で沖縄県が1位

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：牛田 圭一）の観光に関する調査・研究、地域振興機関『じゃらんリサーチセンター』（JRC、センター長：沢登 次彦）は、全国1万5,586人の宿泊旅行者を対象に「じゃらん観光国内宿泊旅行調査 2025」を実施しました。この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う国内旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）実態を調べるものです。2024年度（2024年4月～2025年3月）の主な結果は以下の通りです。

【主な結果】

総合満足度	
1位	香川県
2位	沖縄県
3位	長崎県

地元ならではのおいしい食べ物があった	
1位	高知県
2位	長崎県
3位	山形県

魅力のある特産品や土産物があった	
1位	沖縄県
2位	長崎県
3位	鹿児島県

魅力的な宿泊施設があった	
1位	沖縄県
2位	大分県
3位	佐賀県

地元の人のホスピタリティを感じた	
1位	沖縄県
2位	山形県
3位	高知県

子どもが楽しめるスポットや施設・体験があった	
1位	千葉県
2位	沖縄県
3位	大阪府

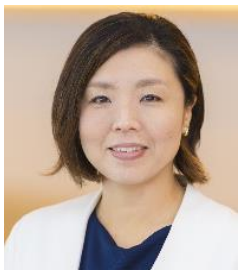
若者が楽しめるスポットや施設・体験があった	
1位	千葉県
2位	沖縄県
3位	大阪府

大人が楽しめるスポットや施設・体験があった	
1位	沖縄県
2位	千葉県
3位	三重県

現地で良い観光情報を入手できた	
1位	沖縄県
2位	鹿児島県
3位	山形県

ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた	
1位	沖縄県
2位	大分県
3位	北海道

【参考】今後行きたい旅行先	
1位	北海道
2位	沖縄県
3位	東京都・京都府



JRC 主席研究員
森戸 香奈子

《解説》**日本人の価値観変化？ 香川県1位はスローな旅需要の兆しか**

総合満足度1位の香川県は、日本人の延べ宿泊旅行者数が2024年度138万人（JRC推計値）で、前年度の149万人よりも減少しており、観光地としても決して規模の大きいエリアではありません。一方、食と子どもが楽しめるスポットにおいてトップ10入りしており、この2つの観光資源が強みになっています。旅行費用も全国平均と比べて安く、お得感も後押ししていそうです。そして50代来訪者のシェアUPや、ひとり旅の増加、ホスピタリティ満足度の向上、「地域らしさを感じられるものを選ぶ」といった旅行者の地域志向の高まり等の結果が出ています。訪日外国人が増え、人気観光地を中心に混雑や物価高の影響を受けやすいなか、日本人が求めるスローでローカルな旅先として評価されたのではないでしょうか。有名な地域でなくても、地域らしさを軸に旅人を満足させることができる、新たな旅の可能性を示していると言えるでしょう。

本件に関するお問い合わせ先

https://www.recruit.co.jp/support/form/

テーマ別　都道府県魅力度ランキング

■ 総合満足度

1位：香川県　2位：沖縄県　3位：長崎県

香川県が圏外から大きくランクアップして1位を獲得
九州から4県がランクイン

1位は香川県で91.3%。前年度はトップ10圏外で、2024年度は大きく躍進した。2位は沖縄県で7ランクアップ、3位の長崎県は3ランクアップした。ほか、5位の鳥取県・熊本県、8位の山梨県・三重県が新たにランクイン。九州からは4県がランクインしている。一方、北海道・東北・首都圏・関西からはトップ10入りはなかった。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	84.1
1位 香川県	91.3
2位 沖縄県	89.4
3位 長崎県	88.9
4位 石川県	88.5
5位 鳥取県	88.0
5位 熊本県	88.0
5位 大分県	88.0
8位 山梨県	87.0
8位 三重県	87.0
8位 鹿児島県	87.0

2023年度 順位	
全体平均	85.8
1位 鹿児島県	92.2
2位 愛媛県	90.5
3位 石川県	90.1
4位 大分県	90.0
5位 徳島県	89.5
6位 長崎県	89.1
7位 京都府	89.0
8位 広島県	88.8
9位 沖縄県	88.6
10位 島根県	88.5

■ 地元ならではのおいしい食べ物があった

1位：高知県　2位：長崎県　3位：山形県

「カツオ」が圧倒的な人気の高知県がトップ
2位長崎県、3位山形県は郷土料理名が多数

1位の高知県は回答者の多くが「カツオのたたき」と回答。2位の長崎県は「ちゃんぽん」が一番人気。ほかには、「佐世保バーガー」「海鮮・魚介類」「皿うどん」「カステラ」「レモンステーキ」など多種多様な食品名が挙がる。3位の山形県は「米沢牛」が最も多いが、「芋煮」「そば」「ラーメン」「玉こんにゃく」など県を代表するご当地グルメも好評だ。7位に香川県が入り、多くが「うどん」と回答している。8位に新たにランクインした熊本県は「馬刺し」「あか牛」など肉類が人気。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	67.1
1位 高知県	82.6
2位 長崎県	80.5
3位 山形県	79.8
4位 広島県	78.4
5位 北海道	77.5
6位 石川県	77.1
7位 香川県	76.3
8位 熊本県	76.0
9位 大分県	74.7
10位 宮城県	74.6

2023年度 順位	
全体平均	67.5
1位 石川県	83.1
2位 福岡県	80.3
3位 鹿児島県	79.6
4位 高知県	78.1
5位 宮崎県	77.8
6位 宮城県	77.6
7位 広島県	77.3
7位 大分県	77.3
9位 沖縄県	76.9
10位 北海道	76.4

■ 魅力のある特産品や土産物があった

1位：沖縄県　2位：長崎県　3位：鹿児島県

菓子類を挙げる人が多くを占めるなかで
沖縄県や鹿児島県は工芸品など多様な品目が挙がる

1位の沖縄県は「ちんすこう」「紅芋タルト」「サーターアンダギー」などの菓子類だけでなく、「海ぶどう」「もずく」「マンゴー」など沖縄ならではの特産品、「シーサー」「琉球ガラス」など工芸品も人気。2位の長崎県は「カステラ」と回答する人が多く、「ちゃんぽん」や「角煮まん」など郷土料理の名前も。3位の鹿児島県は「さつまあげ」「焼酎」「かるかん」「知覧茶」「屋久杉工芸品」などさまざまなお土産品の名前が。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	55.7
1位 沖縄県	68.6
2位 長崎県	66.7
3位 鹿児島県	66.3
4位 石川県	66.1
5位 福井県	66.0
6位 北海道	65.8
7位 広島県	65.2
8位 山形県	63.2
9位 京都府	63.0
10位 愛媛県	62.7

2023年度 順位	
全体平均	55.7
1位 石川県	68.3
2位 沖縄県	67.6
3位 北海道	65.4
4位 福岡県	64.6
5位 宮城県	64.4
6位 長崎県	64.2
7位 広島県	64.1
8位 鹿児島県	63.7
9位 京都府	62.7
10位 徳島県	61.4

■ 魅力的な宿泊施設があった

1位：沖縄県　2位：大分県　3位：佐賀県

リゾートエリアと温泉地が人気
10位の山梨県はキャンプ場やグランピング施設も

1位の沖縄県は離島を含めたラグジュアリーホテルの名前が多く挙がる。2位の大分県は別府や由布院などの有名温泉宿の名前を挙げる人が多い。3位の佐賀県は唐津のリゾートホテルや嬉野温泉の旅館名が多勢を占める。リゾートエリアや温泉を有するエリアが上位に入るなかで、10位の山梨県はキャンプ場やグランピング施設を挙げる声も少なくない。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	60.2
1位 沖縄県	71.8
2位 大分県	71.1
3位 佐賀県	69.8
4位 福島県	68.7
4位 千葉県	68.7
6位 和歌山県	68.6
7位 熊本県	67.6
8位 栃木県	67.2
9位 長崎県	66.7
10位 山梨県	66.2

2023年度 順位	
全体平均	61.0
1位 大分県	73.1
1位 沖縄県	73.1
3位 鹿児島県	69.2
4位 千葉県	69.1
5位 秋田県	67.6
6位 栃木県	66.9
7位 和歌山県	66.5
8位 長崎県	66.3
9位 佐賀県	66.1
10位 北海道	65.3

■ 地元の人のホスピタリティを感じた

1位：沖縄県　2位：山形県　3位：高知県

地元の人との自然な会話や触れ合いから その土地らしさを感じている

1位の沖縄県は、宿泊施設やマリンアクティビティのスタッフ、あるいはタクシーの運転手や居酒屋の店員の対応の良さから親しみやすさを感じたなどのコメントが多い。居酒屋で満席だったが席を空けてもらったなど特別な体験をしている人もいる。2位の山形県は温泉地を中心に宿泊施設のホスピタリティの高さ、3位の高知県は市場や居酒屋などでの地元の人との会話や触れ合いを挙げる人が多い。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	36.4
1位 沖縄県	55.3
2位 山形県	47.2
3位 高知県	46.5
4位 鹿児島県	45.6
5位 福井県	43.7
6位 北海道	41.2
7位 長崎県	41.0
8位 福島県	40.5
9位 岐阜県	40.3
10位 京都府	40.1
10位 愛媛県	40.1

2023年度 順位	
全体平均	35.1
1位 沖縄県	54.6
2位 宮崎県	44.6
3位 岩手県	43.0
4位 青森県	42.1
5位 北海道	41.8
6位 鹿児島県	41.7
7位 石川県	41.4
8位 熊本県	40.7
9位 秋田県	40.5
10位 高知県	39.5

■ 子どもが楽しめるスポットや施設・体験があった

1位：千葉県　2位：沖縄県　3位：大阪府

有名テーマパークが強い上位3府県 まち歩きやスポーツ、体験コンテンツも人気

1位の千葉県は有名テーマパークを中心に、プールや海、キャンプを推す声が多かった。2位の沖縄県は水族館やビーチ、ホテル名やテーマパークに加えて、マリンスポーツを挙げる人も多い。3位の大阪府は有名テーマパークやショッピングセンター、動物園と並んで、道頓堀やなんばなど地名も多い。8位の香川県、10位の山梨県が前年度トップ10圏外からランクイン。香川県はテーマパークや景勝地、うどん体験など。山梨県もテーマパークが人気だが、フルーツ狩りも人気。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	34.2
1位 千葉県	55.2
2位 沖縄県	48.1
3位 大阪府	41.9
4位 福井県	41.8
4位 三重県	41.8
6位 和歌山県	40.9
7位 長崎県	39.8
8位 香川県	38.8
8位 大分県	38.8
10位 山梨県	36.9

2023年度 順位	
全体平均	34.9
1位 千葉県	59.0
2位 沖縄県	47.8
3位 和歌山県	46.5
4位 大阪府	44.3
5位 大分県	40.6
6位 長崎県	40.5
7位 三重県	37.9
8位 北海道	37.0
9位 福井県	36.6
10位 栃木県	36.2
10位 埼玉県	36.2

■ 若者が楽しめるスポットや施設・体験があった

1位：千葉県　2位：沖縄県　3位：大阪府

テーマパークや海、まち歩き、ライブ、買い物… さまざまなアクティビティや過ごし方が挙がる

上位3府県は前年度から順位は変わらず。1位の千葉県は有名テーマパークに加えてショッピングモールや海も人気。2位の沖縄県はマリンアクティビティや水族館、まち歩き、海の見えるカフェなどが人気。3位の大阪府もテーマパークが一番人気だが、なんばのお笑いライブや買い物、水族館や野球観戦など楽しみ方は多岐にわたる。8位に三重県、10位に京都府が新たにランクイン。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	36.9
1位 千葉県	56.1
2位 沖縄県	53.3
3位 大阪府	48.5
4位 長崎県	41.5
5位 北海道	40.4
6位 福岡県	40.0
7位 東京都	39.4
8位 三重県	39.0
9位 大分県	38.7
10位 京都府	38.6

2023年度 順位	
全体平均	37.9
1位 千葉県	58.0
2位 沖縄県	55.3
3位 大阪府	52.5
4位 福岡県	43.7
5位 北海道	40.4
6位 東京都	39.5
7位 長崎県	39.4
8位 神奈川県	39.3
9位 大分県	39.0
10位 広島県	38.0

■ 大人が楽しめるスポットや施設・体験があった

1位：沖縄県　2位：千葉県　3位：三重県

居酒屋や買い物スポット、神社仏閣… 地域によって人気コンテンツはさまざま

1位の沖縄県は前年度2位からランクアップ。海や水族館が王道だが、居酒屋やショッピングセンター、首里などの地名も挙がる。2位の千葉県はテーマパークが圧倒的に人気だが、海水浴や潮干狩り、ショッピングモール・道の駅での買い物、お寺なども人気。3位の三重県は神社や水族館、テーマパーク、サーキット、道の駅などの名前が挙がった。

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	51.8
1位 沖縄県	63.6
2位 千葉県	61.4
3位 三重県	59.2
4位 長崎県	59.1
5位 京都府	58.2
6位 福井県	57.2
7位 北海道	56.7
8位 大分県	54.5
9位 山梨県	53.6
10位 大阪府	53.5
10位 広島県	53.5

2023年度 順位	
全体平均	52.7
1位 千葉県	65.3
2位 沖縄県	64.8
3位 長崎県	58.8
4位 徳島県	58.3
5位 石川県	58.1
6位 広島県	57.3
7位 大阪府	57.1
8位 京都府	56.6
9位 神奈川県	56.1
10位 三重県	55.8

■ 現地で良い観光情報を入手できた

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	35.2
1位 沖縄県	52.9
2位 鹿児島県	45.6
3位 山形県	43.6
4位 高知県	43.2
5位 北海道	43.0
6位 京都府	42.6
7位 山口県	42.4
8位 長崎県	40.7
9位 岡山県	40.1
10位 島根県	39.5

2023年度 順位	
全体平均	35.0
1位 沖縄県	50.3
2位 宮崎県	47.3
3位 奈良県	45.4
4位 鹿児島県	44.8
5位 秋田県	44.1
6位 京都府	42.8
7位 北海道	42.7
8位 石川県	42.5
9位 長崎県	42.0
10位 広島県	39.2

1位：沖縄県　2位：鹿児島県　3位：山形県

現地の人を介して得られた情報や、旬でお得な情報が評価される傾向

おすすめのお店や、穴場スポットなどを人を介して教えてもらったケースを挙げる人が多い。特にガイドや宿泊施設のスタッフなどのタッチポイントは、企業と旅行者の接点となる場合が多い。タクシー運転手や地元の人から直接聞いたケースも多く挙がる。道の駅で聞いた地元のスタンプラリー情報や、夜しか開催しないイベント情報など、旬でお得な情報を欲している様子がうかがえる。

■ ご当地ならではの体験・アクティビティが楽しめた

（単位：%）

2024年度 順位	
全体平均	46.9
1位 沖縄県	64.0
2位 大分県	55.3
3位 北海道	54.6
4位 鹿児島県	54.3
5位 福島県	51.2
6位 栃木県	50.9
7位 千葉県	50.7
8位 和歌山県	50.5
9位 山梨県	50.4
10位 三重県	50.2

2023年度 順位	
全体平均	45.8
1位 沖縄県	64.9
2位 徳島県	55.8
3位 宮崎県	53.2
4位 鹿児島県	53.0
5位 群馬県	52.8
6位 和歌山県	52.5
7位 大分県	52.3
8位 新潟県	52.1
9位 北海道	51.4
10位 長野県	50.6

1位：沖縄県　2位：大分県　3位：北海道

リゾートエリアはマリンスポーツが圧倒的人気 温泉やテーマパーク、名所旧跡も

1位の沖縄県はマリンスポーツが圧倒的に人気。2位の大分県は温泉、地獄めぐりなど。公衆浴場などの地元の温泉施設も人気。3位の北海道は温泉、スノーアクティビティ、野球観戦やキャンプなど幅広い。5位以下は8位の和歌山県以外が、前年度トップ10圏外から新しくランクイン。温泉やテーマパーク、神社などの名前が挙がる。

■ 【参考】今後行きたい旅行先ランキング

（単位：%）

2024年度 順位	
1位 北海道	30.4
2位 沖縄県	20.7
3位 東京都	9.9
3位 京都府	9.9
5位 大阪府	9.6
6位 福岡県	7.8
7位 長野県	5.8
8位 神奈川県	5.4
9位 静岡県	4.8
10位 石川県	4.6
10位 長崎県	4.6

2023年度 順位	
1位 北海道	31.2
2位 沖縄県	21.8
3位 京都府	11.9
4位 東京都	10.2
5位 大阪府	8.8
6位 福岡県	8.6
7位 長野県	5.8
8位 神奈川県	5.2
9位 静岡県	5.0
10位 石川県	4.9
10位 鹿児島県	4.9

1位：北海道　2位：沖縄県　3位：東京都・京都府

長崎県が新たにトップ10入りするも 顔ぶれはほぼ変わらず

今後行きたいと思う旅行先を3つまで挙げてもらった。1位は北海道で3割を超えて突出。2位は沖縄県、3位は東京都・京都府。6位の福岡県から10位の石川県までは順位が変わらず、新たに今年は長崎県が10位にランクインした。

調査概要

◎調査方法　　インターネットによる調査

■1次調査

①調査目的　　全国の国内宿泊旅行実施者を抽出することに加え、
性・年代別の宿泊旅行実施率を知るために実施した
②調査時期　　2025年4月1日（火）～ 2025年4月22日（火）
③調査対象　　全国18～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
④配信数　　75万7,852件
⑤調査内容　　2024年度（2024年4月～2025年3月）1年間の国内宿泊旅行
（出張・帰省・修学旅行などを除く）実態
⑥回収数　　6万8,547件（回収率9.0%）
⑦集計対象者　　2万件
※2次調査において都道府県別、性・年代別の割り付けに合った回収が得られるように配信した

・配信数と割り付けについて
2次調査のセル別目標回収数は、「令和2年 国勢調査」の都道府県別、
性・年代別の人口におおむね従うように47都道府県を8ランクに分け
サンプル数を割り付けて配信した
ランクごとに7:6:5:4:3:2:1:0.8の割合で、合計約1万5,400件の回収を目標とした

・2次調査の配信数について
ウエイトバック値のバランスをなるべくそろえるために、
県別に均等割り付けではなく、ランクを設けて割り付けを行った上で、
1次調査の旅行実施者3万2,850件を都道府県ごとに分配し、
サンプル数を割り付けて配信した
※回収された6万8,547件のうち都道府県別、性・年代別に割り付けを行い2万件を抽出
性・年代別宿泊旅行実施率を算出

■2次調査

①調査目的　　全国の国内宿泊旅行実施者に対して、国内宿泊旅行の内容を知るために実施した
②調査時期　　2025年4月10日（木）～ 2025年4月22日（火）
③調査対象　　3万2,850件
1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人：3万2,850件
④配信数　　3万1,095件
※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割り付けに合わせてランダムに抽出した
⑤調査内容　　昨年度1年間に実施した全ての国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の
行き先と回数について、また一人最大3件までの個別国内宿泊旅行について、
具体的な内容を調査した
⑥回収数　　1万5,619件（回収率50.2%）
⑦有効回答数　　1万5,586件（旅行件数ベース3万16件）

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、人材派遣、マーケティング・マッチング・テクノロジーの３事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。
リクルートグループ：https://recruit-holdings.com/ja/　　リクルート：https://www.recruit.co.jp/